

みんなのいえ便り

No. 4

有限会社くさなぎ農園就労継続支援A型事業所
NPO法人サポートセンター・えん

発行：2010年12月17日

〒080-2336

北海道帯広市八千代町東1線180番地

有限会社くさなぎ農園

NPO法人サポートセンター・えん

Tel・Fax 0155-60-2012

パークゴルフ大会開催！

9月30日木曜日、実習生の打ち上げも兼ねて、喫茶ポロシリで昼食会をし、その後、パークゴルフを楽しむことができました。パークゴルフはみんな初めてとあって、なかなかゴールにたどり着かず四苦八苦。例年に無く暖かい日差しの中、スポーツの秋を満喫しました。



くさなぎ農園のみなさんへ
もうすっかり秋らしくなってきましたね。みなさん元気になっていきますか。
3週間の実習では、お世話になりました。
実習に入って、日取初はわかりないうことがいろいろありました。か少しづつ
おぼえることができて、進んで、できるようになりました。
実習では親切に教えてくれたので、安心して働くことができました。
卵ふきとパークゴルフは、まあまあ上手にできました。
たいへんだったことは、卵取りでやがすがすがしくなりました。
実習でやったことを、心に残っています。
これから生活でがんばりたいと思います。
色々教えていただき、かんしゃしています。
本当にありがとうございました。

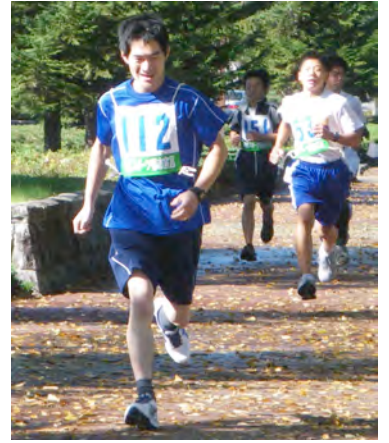
じっしゅう つか さま 実習お疲れ様でした

なかきつないこうとうようごがっこう しゅうかんげんぼじっしゅう き
中札内高等養護学校から3週間現場実習に来て
いた実習生から礼状が届きました。9月6日か
ら、毎日まじめに仕事をしてくださいました。くさなぎ
農園での経験を生かし、より充実した学校生活を
送ってください。



市民マラソン参加!

10月11日快晴24度。秋とは思えない陽気の中、2010帯広の森スポーツフェスティバルが行われ、「みんなのいえ」一番の俊足 Mさんがファミリーマラソン3キロの部に出場しました。スタート前に「目標10位以内」と語っていたMさん。スタートラインに集まった100名近くの選手の中には中学生陸上部員が20名ほどおり、「10位なんて無理かも!」と正直心配していました。午前9:15スタートの合図とともに中学生軍団が飛び出します。なんと、その中にMさんの姿が!後半になっても一般男子としてはただ一人中学生たちと競い合い、見事11位でゴール。目標には一歩及ばなかったものの、一般男子の中ではだんとつの1位でした。係員の方もびっくりの11分54秒!応援者も汗だくになったすばらしいレースでした。



あたしは10月11日に市民マラソン大会にはじめてさそかしました。とうじつは天気があつたのでほしりやすい空でした。あたしはスタートがもろかつたのでつぎにはしるときはスタートをあくして10位までにかきそうしたのです。お尻のななでは1位がかつたのでうれしかつたです。

避難訓練

11月26日(金)昼食時に避難訓練を行いました。今回は消火器の使い方・119番通報の仕方・避難経路の確認をしました。また、火事や地震が起きた場合の対処の仕方についても、真剣に耳を傾けていました。避難方法や119番通報の仕方については、食堂の掲示板と裏玄関に貼り、いつでも確認できるようにしてあります。



例年になく暑い夏に、このまま冬は来ないのでは?と心配(期待?)していました。しかし、やはり来りましたね!雪や氷で道がスケートリンクになり、足元要注意です。鶏たちも急な寒さに驚いている様子。利用者も職員も、仕事に運転に緊張の日々が続いています。



食へ放題キングはだれだ!

11月13日土曜日に佐藤さんとわたし本
多の誕生会が夜6時からフードスタジア
ムでおこなわれました。S・Mさんは、29
才で、わたしH・Dは、19才をおかえて一
つとしをとりました。(笑)そこでまず
ビュックリは、皆が焼き肉を食べているの
にF・Tさんは、いきなりソフトクリーム
を食べはじめ皆ビュックリそうに見ていま
した。ここからは、だつらく発表をしま
すの

1位	H・D	さん	ダイエット失敗。
2位	K・Y	さん	2回戦敗退。
3位	O・A	さん	負けずに食べた。
4位	S・M	さん	さしごまで食べる。
5位	F・T	さん	ソフトクリーム。
	M・S	さん	こうはん食べる。

さて皆食やすぎてしまひ、7時30分す
ぎに出て、それぞれ9時まで自由行動を
して一日を楽しくすごしました。やっぱり、
食べてすぐに歩くのは、きつかった
ですね。又皆で行きたいと思ひました。
さしごになりましたが、わたしは、初め
て皆と一緒に仕事いがりで、楽しくすご
した事を感じます。

スタッフ日記

相談支援従事者研修を受けた。

サービス管理責任者

2年前のサービス管理責任者研修では、「卯屋のおかみさんとして髪を振り乱している間に時代は変わったんだ...」という浦島太郎のような驚きを感じ、手探りしながら支援者として日々を重ねていく中、再び研修の機会が与えられました。学生時代に感じた施設福祉への違和感と障がいをもつ人の社会の受け皿の少なさに「自営をして一人でも雇用したい。一人の市民として彼らと共に社会の中にいたい」と福祉現場を離れて十数年の試行錯誤がありました。そして時代に後押しされるように多くの方々の出逢いと支えから就労継続支援A型事業所とケアホームがあります。研修では障がい者政策が大きな転換期にあり、法律を含めた社会のシステムづくりがはじまっていること。「指導・訓練」ということばがどこか懐かしいほど『本人支援』、ひとりひとりの希望をどのように実現していくかがすべての基になっていることに新人職員のようにワクワクしました。実際現場では目の前の小さな問題と日々向きあいながら経営の基盤である卯屋稼業をみなそれぞれの大きき早さの歯車をまわして365日動きつづけている状態です。しかし改めて自分の仕事を常に振り返ることの大切さを痛感しました。ともすると本人の望まない方向をむいていることのこわさを自覚しつつ、これからもメンバー、スタッフ、地域の職場の方々、家族の方々...などの関係を紡ぐ支援をじっくりとしていきます。